

# 令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■共同研究 1	公益目的事業 11
主査名	堀田一吉 慶應義塾大学教授	
研究テーマ	MaaS 社会の進展と自動車保険	
<p>現在、日本各地で MaaS (Mobility as a Service) の実証実験が行われている。この MaaS は、デジタル技術を利用して総合的に移動 (Mobility) をシームレスにつなぐシステム構築である。自家用車 (マイカー) 以外の公共交通機関を利用して、トータルの移動サービスが提供されようとしている。自動車を単独で考えるのではなく、他の輸送サービスを含めて統合的に捉えることになり、従来までの自動車の価値概念が大きく変化しようとしている。そうした状況は、相対的に自家用車の必要性を減少させることになり、保険需要も低下することになるだろう。</p> <p>また MaaS の普及は、それに伴うリスクの発生構造を大きく変える可能性がある。運転が保有するリスクから、多様な補償サービスを包括的に提供することが求められることになり、リスクの性質を変化させるものである。MaaS 社会の進展によって、保険業界も少なからず影響を受けることになる。</p> <p>本研究では、MaaS に対応した保険サービス重視の IaaS (Insurance as a Service) のような構想が可能かを考察してみたい。昨年まで「CASE 革命と保険業」の研究テーマの下で、シェアリングエコノミーと自動車保険の関係性についての考察を行ったが、今回のテーマは、それを MaaS に発展的に連携させて総合的に研究することになる。これまでの交通手段ごとに保険を付けるスキームから、発想を転換して利用者の交通移動サービスを総合的に補償するスキームへの移行させることになる。この構想は、交通システムに限らず、社会システム全般への発展可能性を期待させる大きな研究課題である。</p> <p>研究の進め方としては、テーマに基づいて、様々な専門家を講師として招いて研究会を開催し、全体討議を通じて研究成果に導きたい。同時に、メインテーマの下にサブテーマを作り、研究分担体制を図りながら、全体としての研究成果をまとめていきたい。</p>		